

五輪出場のフォルティウス 最終予選前に町長、議長が激励！



フォルティウスのメンバーを激励する
滝本町長（中央右）と廣田議長（同左）

ミラノ・コルティナ冬季五輪最終予選（12月・カナダ）が開催されるのを前に、滝本昇司町長と町議会の廣田毅議長は11月21日、札幌市の「どうぎんカーリングスタジアム」を訪れ、町応援大使のカーリングチーム「フォルティウス」のメンバーを激励しました。両氏は妹背牛産米20キロと地元銘菓を手渡し、町民を代表して温かい応援の言葉を送りました。

チームはこれまで、合宿やカーリング教室などを通じて町民と交流を深めてきました。昨年8月には選手5人の等身大パネルを町内3カ所に設置するなど、町とのつながりは年々強まっています。選手たちも「ファンの皆さんから反響があり、妹背牛との結びつきを感じています」と、語っています。

滝本町長は、かつて全国制覇を果たした旧妹背牛商高女子バレーボール部を例に挙げ、「町の名前を全国に広めてほしいです」と激励。廣田議長も「自分たちの力を信じて頑張ってください」と、エールを送りました。

スキップの吉村紗也香選手は「妹背牛の応援を力に変えて全力を尽くしたいです」と意気込みを述べました。

町は連日、最終予選に合わせて町カーリングホールでパブリックビューイングを開催し、チームが五輪出場を決めるまで、町を挙げて応援を続けました。

地域おこし協力隊通信

妹背牛町に在籍する地域おこし協力隊員の活動状況などを紹介します。



先輩熱波師の、右からショウタイム加藤さん、アウスグーフィーさんとともにタオル演舞を披露する米林さん

妹背牛町地域おこし協力隊員の米林弘樹さんは、北空知管内の温泉施設で唯一、熱波イベントを定期開催している妹背牛温泉ペルを拠点に、サウナ文化の魅力発信に取り組んでいます。

広々としたサウナ室には、ドイツ発祥のサウナパフォーマンス「アウフグース」を実施できる設備が整っており、米林さんは「恵まれた環境を生かし、より多くの人にサウナを楽しんでもらいたいです」と、熱波イベントに力を入れています。

サウナ人気の高まりを受け、ペルでは専属の熱波師が3人体制となり、イベントの内容や演出の幅が広がりました。「シルヴァニア・ヨネ」の活動名でパフォーマンスを行う米林さんは、先輩熱波師のアウスグーフィーさん、ショウタイム加藤さんとともに、オリジナリティあふれる技とトークで来館者を楽しませています。

町外の温泉施設に向いてペルをPRするなど、3人の活動はサウナ室内にとどまりません。12月6日に妹背牛町郷土館で開催された、食と音楽のイベント「ロケット姉妹LIVE in 妹背牛町郷土館」では、目玉企画の一つとしてペル専属の熱波師3人が登場。サウナ室を飛び出して、息の合ったタオル演舞を披露し、音楽イベントの会場を盛り上げました。

演舞を終えた米林さんは「熱波師の仲間が増えたことで、サウナに馴染みのない人たちにも、その魅力を広めていきたいです」と、今後の活動に意欲を見せています。